

政治の後退を許さず、要求実現めざして運動と世論をいっそう発展させよう

——参議院選挙の結果について（談話）——

2010年7月12日

日本高等学校教職員組合

中央執行委員長 加門憲文

6月24日公示された第22回参議院選挙は、昨日（7月11日）投開票がおこなわれました。結果は、民主党の44議席（10議席減）に対して、自民が51議席（13議席増）、みんなの党が11議席（10議席増）などとなり、参議院の与野党勢力は与党が109議席、野党が133議席と逆転することとなりました。こうした結果は、昨年夏の総選挙で政権を取りながら、平和とくらしの要の問題で国民を裏切り続けてきた民主党への批判の表れであり、国民が主人公の政治を求める探求と模索が依然として続いていることを示しています。

今後、与野党「ねじれ国会」の状況のもとで、政権与党と一部野党との「部分連合」や政界再編など、引き続き政治の激動が予想されます。また、今回前進した自民・みんなの党などは、憲法改悪・「構造改革」路線の推進勢力であり、今後の政策動向が平和・くらし破壊の方向に向き、政治が後退することを警戒しなければなりません。その点で、くらし・平和・教育破壊を許さず、子どもと教育、教職員・国民のくらしを守るために、いっそう運動と世論を発展させることが求められています。

日高教は、国民の運動と世論が政治を動かすことに確信を深め、政治の後退を許さず、憲法が生きる政治の実現をめざして、国民共同のたたかいに全力をあることを、改めて表明するものです。

以上